

てカルトンとにらみつくらをして居る。暫くは静だ。下の人體部でおぼりといふ聲がする。同時にカルトンをしまふ音が騒動しい。つゞいて二階でもばたノノとしまい出す。便所が繁昌するのだらう、其の戸をあけたてする音がはげしい。さようならがら／＼ヒツシヤリ研究所の十二時は一番騒動しい時である。

我 廢 筆 !!

鹽 島 愛 山

呼、汝廢筆よ、汝今我許を去らざる、べからざるか、呼、悲しひ哉、思へば汝の余に仕へし年月の永き事よ、汝が余に、買はれしは、今より五年前なりき。當時より汝は余が習畫に於ける無二の友の一人なりしに今や早くも汝と別れざる可からざるか。

或時は余が旅行中寫生せし折、汝が水を含めるの甚だ多き爲め、ワットマン紙の他の部分に流れ渡りし時など、短氣なる余は汝に罪なきを思はで、強く、汝を寫生箱中に投げすてたる時もありき、北風凜乎として水凍る冬の頃には、恰かも、するどき錐の如くなりぬれど、尙汝は其天職を忘れず、自己の身をくだきて余に仕へたりしこと甚だ大なりき、けれど、汝哀れなる廢筆よ。思え、花にも風あるを、榮枯又盛衰は此社會の常なるを、思へ汝も今は年すてに甚だ老いて、頭髮少なくなりければ、今日の目まで、共々に余に、志勤なりし他の畫筆、及び鉛筆な

どに惜しき袂を別ち、永くすみなれし余が寫生箱の中より立ち去るべき身とはなりしぞ遺憾なれ、ささらば、余は最愛なる、汝と共に別れんとするに際し余は今迄汝より得たる教訓を少しく語らんと欲す、そも此天地間ありとあらゆる物何ものか其各自つくす可き天職なからんや、例せば花の人目を樂みまじむるが如きも、その道をまもり、散るべき時には散るが如く、よく汝が畫筆たるの天職をつくし神より受けしす、ての職務を果し、而して今やその道に斃る、これぞ即ち汝が其天職をつくしたるものにして甚だ尊ぶべき事なるぞ、吁然るに、汝が主人公たる余は、未だに自己の天職義務の一片をもつくし得たるや否や、余未だ一として人に語るが如き、又自から慰むるが如き功なし之れ豈汝の主人公たる余が、汝に對して、深く恥ずる事共なり。

日本水彩畫會新會友

静岡縣興津町清見寺區遠藤滋方	若林辰次郎
大阪市北區蛸橋北詰八六	齋藤清次郎
鹿兒島市下龍尾町一七八山方	庄司義治
福井縣丹生郡吉野村吉野小學校	梅田正義
石狩國上川郡愛別村	寺戸潔
和歌山縣師範學校寄宿舎	橋爪備棟